

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年5月号)

2024/4/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは4月30日(火) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		4月29日現在	5月の予想		(月末値)
USD	ドル・円 (円)	156.35	152.0	~ 162.0	↓ 155.0
	日銀利上げ観測 < FRB利下げ後ずれ観測				
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.072	1.06	~ 1.09	→ 1.07
	ユーロ・円 (円)	167.60	164.0	~ 172.0	↓ 165.9
当面はユーロが底堅い展開					
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.256	1.23	~ 1.26	↓ 1.25
	ポンド・円 (円)	196.42	193.0	~ 201.0	↓ 194.0
利上げサイクル終了もポンド円は底堅い展開が継続か					
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	102.66	100.0	~ 105.0	→ 102.0
	NZドル・円 (円)	93.45	91.0	~ 95.0	→ 93.0
資源価格上昇と円安の流れから対円では高値圏でもみ合う展開					
株式 相場	日経平均 (円)	37,935	37,000	~ 41,000	→ 39,500
	半導体株の調整や中東情勢悪化懸念はリスクだが、内需銘柄は堅調で小幅上昇を見込む				
長期 金利	NYダウ (ドル)	38,386	37,000	~ 41,000	→ 39,500
	ハイテク株で優良銘柄の選別が進むが、過度な調整からの反発で小幅上昇を見込む				
長期 金利	日本 (%)	0.920	0.80	~ 0.95	↓ 0.850
	材料難で金利は横ばいか				
長期 金利	米国 (%)	4.614	4.25	~ 4.75	↓ 4.500
	利下げ開始時期を巡る不透明感が煽る				

◆ 今月の注目ポイント

日銀の早期利上げ観測は高まるか! ?

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
日銀	◎	【金融政策の多角的レビューに関する第2回ワークショップ】 「過去25年間の経済・物価情勢と金融政策」というテーマで21日に開かれる。内田、氷見野両日銀副総裁が出席する他、大学教授など著名な専門家をパネリストとし意見交換や討論が実施される。市場の関心が次の追加利上げのタイミングとペースに集中する中、次回以降の会合に向けた材料が示されるかが焦点となる。
景気	○	【米経済指標】4月に発表された米経済指標は、雇用・景況感・物価・消費すべて概ね強めの内容となり、市場のFRB利下げ観測は徐々に後ずれし、パウエルFRB議長も先月、物価上昇率が2%に戻る確信を得るには「予想以上に時間がかかりそうだ」と発言するに至った。年内の利下げは無い、或いは次の政策変更は利上げとの見通しも一部で台頭する中、今月公表される4月雇用統計(3日)、4月CPI(15日)、3月小売売上高(15日)は、注目度が高まる。

◆ アジア通貨見通し

	4月29日現在	5月の予想		(月末値)
人民元・円	21.57	21.11	~ 22.19	→ 21.50
バーツ・円	4.225	4.00	~ 4.30	↓ 4.15
ルピア・円	0.962	0.92	~ 0.97	→ 0.95

◆ 今月の重要日程

1日(水) 米	4月ISM製造業	10日(金) 米	5月ミシガン大消費者信頼感指数
1日(水) 米	FOMC(結果発表)	15日(水) 米	4月CPI
3日(金) 米	4月雇用統計	16日(木) 日	23/1QGDP1次速報
3日(金) 米	4月ISM非製造業	23日(木) 欧	5月PMI
7日(火) 豪	RBA理事会	24日(金) 日	4月CPI
9日(木) 英	BOE金融政策委員会	31日(金) 米	4月個人所得・消費支出

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2024年5月号)

2024/4/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円

152.00 – 162.00円

日銀利上げ観測 < FRB利下げ後ずれ観測

4月のドル円相場は151円台で始まると、発表された米経済指標が、雇用、景況感、物価、消費と軒並み強い内容となり、FRB利下げ観測の後ずれとともにドル買いが進み、中旬に152円の介入警戒ラインを突破。さらに、決算発表シーズンに入り株が徐々に持ち直すと、リスクオンの円安が進み、ドル円は次の介入警戒ラインと目されていた155円を上抜けると、日銀は当面低金利政策を維持するとの思惑から円売りが加速し一時160円前半を付けた。その後、当局による円買い介入と思しき動きに154円台まで急落と乱高下した。

4月の日銀決定会合は金融政策の現状維持が決まり、国債買入れの縮小方針は示されなかった。日銀は低金利政策を維持するとの市場の思惑は根強い。一方、市場のFRB利下げ観測は徐々に後退しており、年内の利下げは無し、或いは次の政策変更は利上げとの見方も台頭する中、円買い介入に対する警戒感は続くが、日米金利差を背景としたドル高円安の流れは継続する公算が大きい。今月は米国の物価や雇用、消費などの重要指標に注目。国内では21日に開催される日銀多角的レビューにおける第2回ワークショップにて、追加利上げに向けて示唆があるか留意。

ユ ー ロ



ユーロドル

1.06 – 1.09ドル

ユーロ円

164.00 – 172.00円

当面はユーロが底堅い展開

先月は、中旬に公表された米3月分の消費者物価が上振れたことにより、米国の利下げ見通しが後退したことでドル買いが強まり、ユーロドルが急激に低下する場面があった。しかし、その後は4月のユーロ圏PMI速報で景気の底入れの兆しが出たことなどでユーロが買い戻され、ユーロドルは上昇に転じている。

5月のユーロは底堅い展開を見込む。ECBの初回利下げは6月とのコンセンサスが形成されつつあり、FRBに先んじて利下げを開始する可能性が高まっている。しかし、そうした金融政策見通しの中でもユーロの底堅さが持続的に見られており、利下げによってユーロ圏景気が底堅さを取り戻すまでの姿が見込まれているようだ。そうした見方を前提にすると、当面に見込まれるユーロ圏のインフレ率はユーロに対して限定的な影響しか与えない可能性があり、景気見通しの改善が続けばユーロの底堅い推移が続いていきそうだ。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

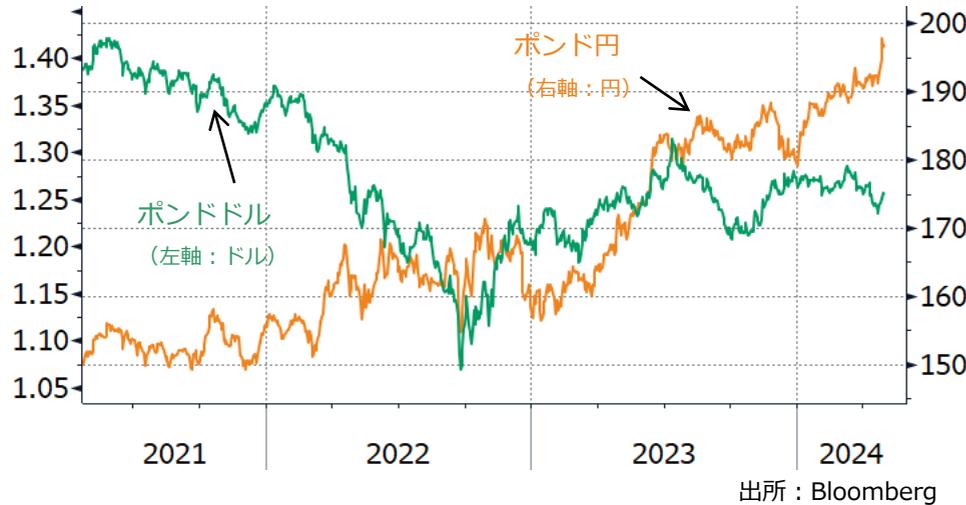
りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2024年5月号)

2024/4/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポンド



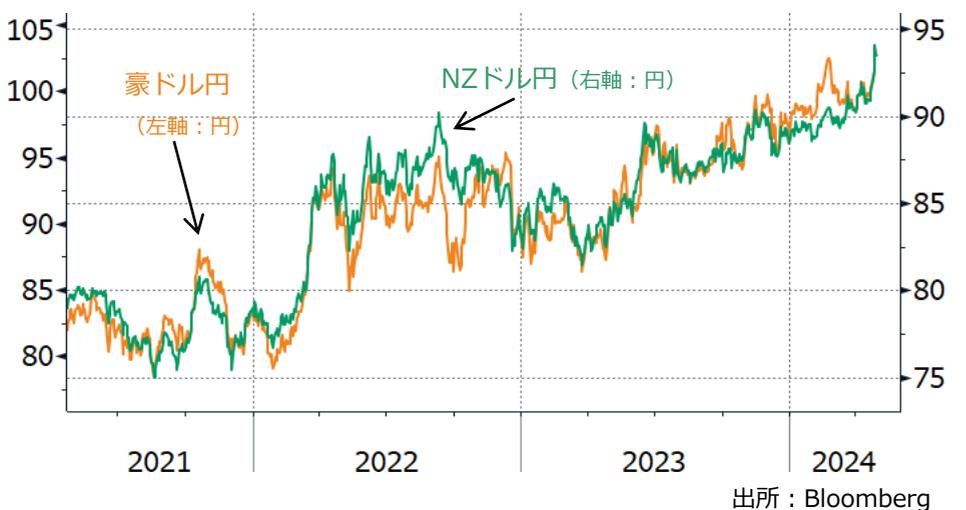
ポンドドル	1.23 – 1.26ドル
ポンド円	193.00 – 201.00円

利上げサイクル終了もポンド円は底堅い展開が継続か

4月のGBPは対USDで下落。3月の金融政策決定会合(MPC)が、声明文に利下げを示唆する文言が追加されるなど、ハト派サプライズとなったことなどから総じて上値の重い展開。FRB利下げ観測の後ずれを受けたドル買いもGBP売りに拍車を掛けた。一方、対JPYでは、金利差を背景とした全般的な円売りが進む中、日銀決定会合で金融政策の現状維持が決まり、円売りに拍車が掛かると、ポンド円は2008年8月以来となる200円台を付けた。

5月のGBPは上値の重い推移を予想する。英中銀の利上げサイクルの終了と、米国の利下げ観測の後退がGBPの上値を抑えよう。対JPYでは、引き続き底堅い展開を見込む。当局による円買い介入への警戒感は続くが、日銀は追加利上げを急ぐ姿勢を示しておらず、高金利通貨に対する円売りの流れは継続、ポンド円も底堅い展開が継続すると見込む。

豪ドル・NZドル



豪ドル円	100.00 – 105.00円
NZドル円	91.00 – 95.00円

資源価格上昇と円安の流れから対円では高値圏でもみ合う展開

4月のオセアニア通貨は対JPYで上昇した。豪3月雇用統計が予想を下回り、一時下落する場面があったものの、豪3月CPIが予想を上回ったことをきっかけに豪ドル円は再び100円台を回復。原油や金が増加し続ける中、資源国通貨は買われやすい地合いが継続。日銀決定会合では金融政策の現状維持が決まり、円は一段と売られ、豪ドル円は2013年4月以来となる103円台を付けた。

5月のオセアニア通貨は、高値圏でもみ合いが続くと予想する。豪中銀、NZ中銀ともに金融政策の据え置きが予想されている。利上げサイクルはともに終了したと見られるが、資源価格の上昇やリスク選好の流れもありオセアニア通貨は底堅い推移が継続している。当局による円買い介入への警戒感は続くが、日銀は追加利上げを急ぐ姿勢は示しておらず、資源国通貨に対する円売りの流れは継続、豪ドル円、NZドル円も底堅い展開が継続すると見込む。

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

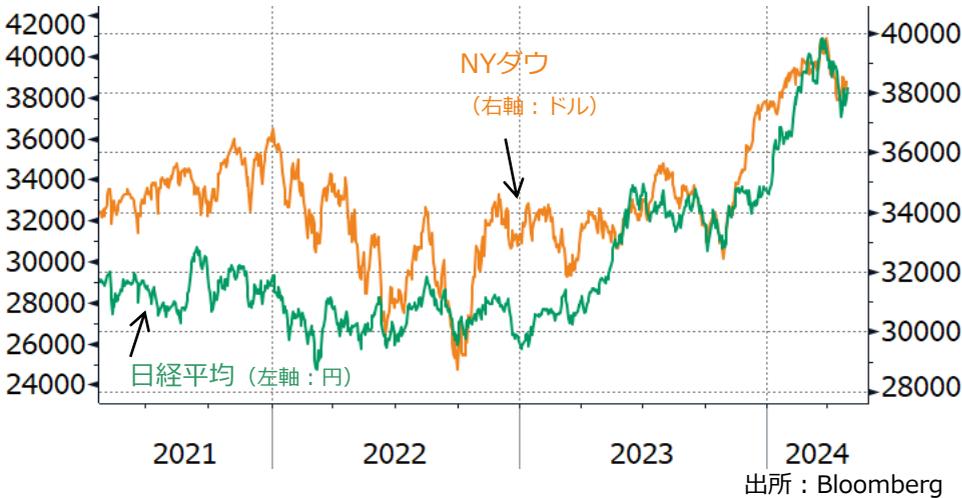
りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2024年5月号)

2024/4/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株式見通し



日経平均

37,000 – 41,000円

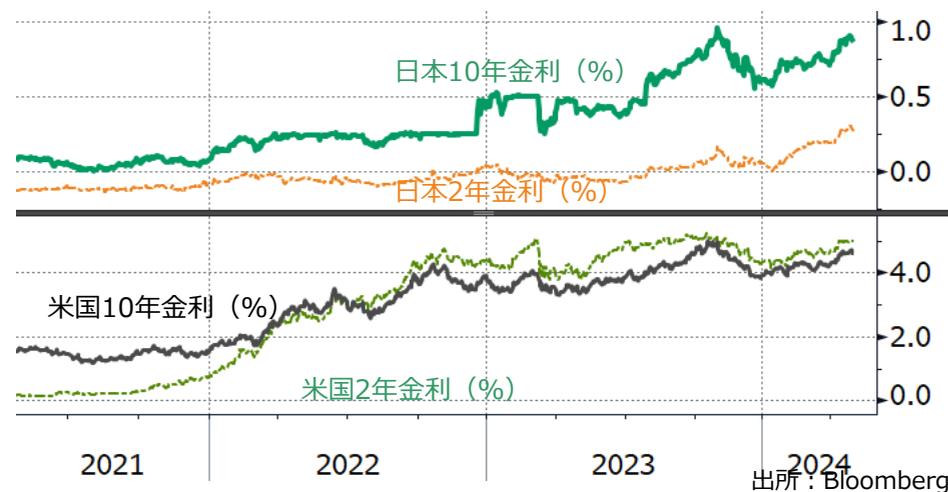
半導体株の調整や中東情勢悪化懸念はリスクだが、内需銘柄は堅調で小幅上昇を見込む
米ハイテク株が調整したことや、中東情勢悪化により、マーケットはリスクオフ姿勢が鮮明となり4月下旬にかけて株価は大きく調整することとなった。もっとも、来期以降も日本株全体としては増益基調であり、PBR1倍近辺で下げ止まった後は買いが入るなど、下落基調へ転じたとは言えない。決算発表が徐々に始まっているが、これまでのところは内需を中心にアナリスト予想の上方修正が進んでいる。外需にはリスクも燻るが、内需堅調で5月にかけて小幅上昇を見込む。

NYダウ

37,000 – 41,000ドル

ハイテク株で優良銘柄の選別が進むが、過度な調整からの反発で小幅上昇を見込む
AIブームで先端半導体市況は好調だが、それ以外の半導体の回復が緩慢である。真新しい材料ではないが、FRBの利下げ開始時期後退を織り込むにつれ、マーケットの関心が先々のガイダンス以上に実績に移ったため、株価調整の材料となった。とはいえ、今般の調整はやや行き過ぎた印象がある。これから決算発表が佳境を迎えるが、その過程においては、実績を踏まえたバリュエーションの調整が進みつつも、押し目買いから小幅上昇を見込む

長期金利見通し



日本国債10年

0.80 – 0.95%

材料難で金利は横ばいか

3月のマイナス金利解除に続いて、先月は日銀が国債買入れ減額に布石を打つという趣旨の事前報道があり、金融性決定会合に向けて金利は上昇した。しかし、実際には、日銀は3月の決定事項を維持することを決定し、長期国債の買入れ方針に変更は加えられなかった。今月は金融政策決定会合がなく材料薄となるが、日銀が行っている多角的レビューにおいて、日銀による大量の国債保有を疑問視する見方が出れば、国債買入れ減額の思惑が再度台頭しそうだ。

米国債10年

4.25 – 4.75%

利下げ開始時期を巡る不透明感が燻る

6月あるいは7月に利下げするならば、5月のFOMCで材料が示されるはずだが、相次ぐ強い経済指標を受けて、パウエル議長を始めとするFRB高官は利下げに慎重なスタンスを示している。7月の次のFOMCは9月だが、米大統領選前のスタンス変更は前例がない。とすれば、年内の利下げ回数が1回になってしまう可能性もある。他方、資産買入れペースの減速が決まれば、タームプレミアムからは金利の上昇圧力が弱まる。強弱材料が入り交り米金利は高止まりか

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年5月号)

2024/4/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

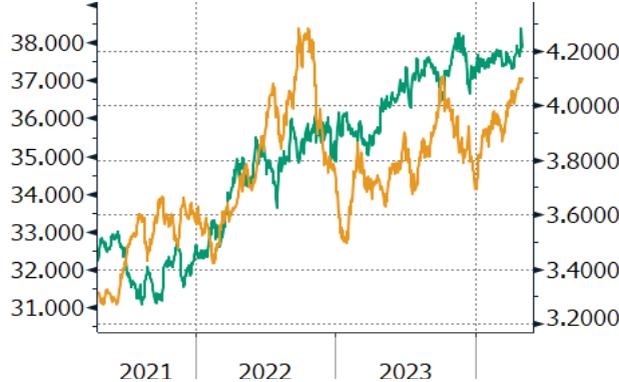
◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		4/29	4月の相場推移	5月の予想	見通し
中国	人民元/円	21.57	20.81 ~ 21.66	21.11 ~ 22.19	中国景気が底入れの兆しを示すも人民元の持続的なサポートにはならず 4月に公表された中国の主要な経済指標は、1-3月期のGDPを中心に中国経済の底入れの兆しを示す内容だったが、人民元の持続的なサポートにはならなかった。ドル/人民元には米国の金利動向の方が重要であることを示唆する動きとなった。米国金利の高止まりが続く中で、ドル/人民元は下落しにくい状況が続くそう。
	ドル/人民元	7.238	7.23~7.28	7.20 ~ 7.30	
タイ	バーツ/円	4.225	4.10~4.31	4.00~4.30	セター首相は利下げを要求もFRBより前に利下げには転じ辛い 4月のドル/バーツは、米インフレ指標の上振れで米金利が上昇し、バーツ安が進行。セター首相は中央銀行へ利下げを要求しているが、自国通貨安への懸念からFRBより前に利下げには転じ辛かろう。5月も米金利は高止まりする中で、両国金利差は横ばいとなり、一進一退で推移しよう。
	ドル/バーツ	37.03	36.24~37.17	35.0~38.0	
インドネシア	100ルピア/円	0.962	0.94~0.98	0.92~0.97	インドネシア中銀は6か月ぶりの利上げを決定 4月のドル/ルピアは、米インフレ指標の上振れで米金利が上昇し、ルピア安が進行。ルピア安による輸入インフレへ対応するために、インドネシア中銀は24日、6か月ぶりの利上げに踏み切った。もっとも、米金利の高止まりが見込まれる中では、ルピア高方向への転換は想定しづらい。一進一退での推移が続こう。
	ドル/ルピア	16,255	15,845~16,288	15,800~16,300	

— 人民元・円 (右軸) — ドル・人民元 (左軸)



— バーツ・円 (右軸) — ドル・バーツ (左軸)



— ルピア・円 (右軸) — ドル・ルピア (左軸)



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年5月号)

2024/4/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2024年			2025年	ポイント
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
ドル円	レンジ	150～165	147～162	145～160	140～155	日米金利差は縮まらずドル円は底堅い展開が6月頃まで続くが、日銀の追加利上げやFRB利下げ観測が強まる秋ごろから徐々に上値の重い展開に。
	期末値	155	152	150	145	
ユーロドル	レンジ	1.05～1.15	0.95～1.05	0.95～1.05	1.00～1.10	インフレ低下の見通しと、景気の減速懸念で、ECBは6月から利下げ局面。しかし、インフレ懸念も根強く、利下げペースは緩やかなものになる。米国対比で利下げ開始が早いことから上値は重い、利下げで景気が順調となれば、底堅さを取り戻す。対円では日銀が緩和的な環境を維持することで高値圏に留まりそう。
	期末値	1.05	1.03	1.03	1.08	
ユーロ円	レンジ	158～180	145～170	140～165	145～170	BOEの利上げサイクルの終了が示唆され、次の一手は利下げの可能性も、対円では日銀利上げペースは緩やかとの思惑から日英金利差はあまり縮まらず、ポンド円の下落スピードは緩やかに。
	期末値	163	157	155	157	
ポンドドル	レンジ	1.20～1.32	1.17～1.29	1.17～1.29	1.20～1.32	中国当局は通貨価値防衛から景気浮揚へと軸足を移しつつあり、一定程度の人民元安を容認する姿勢を採った。しかし、景気支援策による中国経済の回復に加え、FRBの利下げによる米中金利差の縮小はドル人民元を押し下げていく。
	期末値	1.25	1.22	1.22	1.25	
ポンド円	レンジ	187～203	174～190	172～188	173～190	資源価格の上昇やリスク選好の動きから底堅いが、豪中銀のスタンスが中立化する中では徐々に上値が重くなろう。日銀利上げの思惑も徐々に重しに。
	期末値	194	185	185	181	
ドル人民元	レンジ	6.90～7.30	6.80～7.20	6.70～7.10	6.60～7.00	観光業の回復、景気支援策から底堅く推移するが、日銀政策修正の思惑で徐々に下落へ。
	期末値	7.15	7.00	6.90	6.80	
人民元円	レンジ	21.70～22.60	21.61～22.50	21.64～22.54	21.21～22.14	
	期末値	21.68	21.71	21.73	21.32	
豪ドル円	レンジ	98.00～106.00	96.00～104.00	96.00～104.00	94.00～102.00	
	期末値	102.00	100.00	100.00	98.00	
タイバーツ円	レンジ	3.50～4.50	3.50～4.50	3.70～4.80	3.70～4.80	
	期末値	4.15	4.20	4.35	4.35	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2024年5月号)

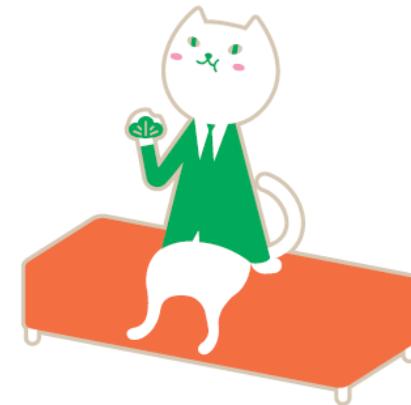
2024/4/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
5/1(水)		4月ADP雇用統計 4月ISM製造業景況指数 FOMC (結果発表)	
5/2(木)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (3/18~19開催分)	3月製造業受注 3月貿易収支	
5/3(金)	(憲法記念日)	4月ISM非製造業景況指数 4月雇用統計	
5/4(土)	(みどりの日)		
5/5(日)	(こどもの日)		
5/6(月)	(振替休日)		
5/7(火)		3年債入札	(豪) 準備銀行理事会
5/8(水)	10年債入札	10年債入札	(中) 4月貿易統計
5/9(木)	3月毎月勤労統計 (速報)	30年債入札	(英) BOE金融政策委員会
5/10(金)	30年債入札 3月家計調査 4月景気ウォッチャー調査		
5/11(土)			(中) 4月CPI
5/13(月)			
5/14(火)	4月企業物価指数 5年債入札	4月PPI	(独) 5月ZEW景気指数
5/15(水)		4月CPI 4月小売売上高 5月NY連銀製造業景況指数	(欧) 1-3月期GDP (速報値)
5/16(木)	1-3月期GDP (一次速報値) 20年債入札	4月住宅着工・許可件数 5月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	
5/17(金)			(中) 4月生産・小売・投資

	日本	米国	その他
5/20(月)			
5/21(火)			
5/22(水)	40年債入札 4月貿易統計	20年債入札 4月中古住宅販売 FOMC議事要旨	
5/23(木)		4月新築住宅販売	(欧) 5月PMI (速報値)
5/24(金)	4月消費者物価指数		
5/27(月)		(戦没者祈念日)	(独) 5月IFO企業景況感指数
5/28(火)		2年債入札 5月消費者信頼感指数 5年債入札	
5/29(水)		7年債入札	
5/30(木)	2年債入札	1-3月期GDP (改定値)	
5/31(金)	4月鉱工業生産 4月労働力調査	4月個人所得・消費支出	(中) 5月PMI



◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年5月号)

2024/4/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【3/29~4/11】

◎清明節旅行、人流は春節以上

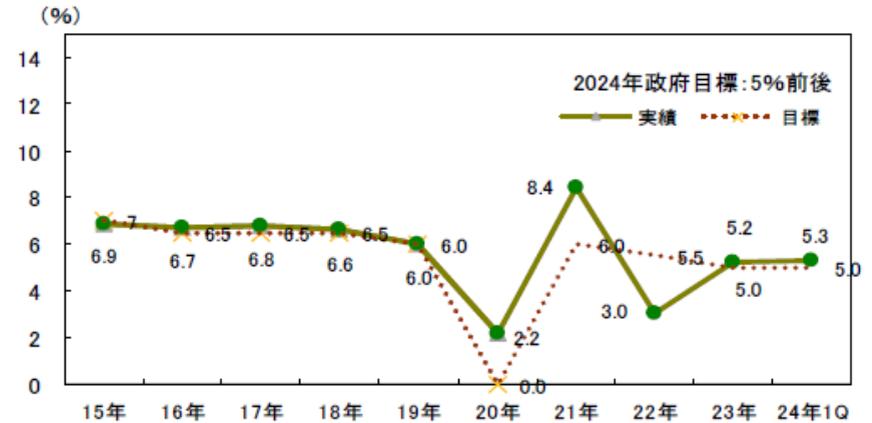
中国文化観光省は6日夜、今年の清明節連休（4月4-6日）の国内旅行者数が1億1,900万人だったと発表した。19年の同連休比で旅行者数は11.5%、消費額は12.7%増加した。検索サイト百度（バイドゥ）が公表したデータによると、4日の人流指数は春節連休のいずれかの日も上回った。一方、海外旅行者数は回復が遅れている。今年の清明節連休に海外旅行に出かけた人は99万人で、19年をわずかに下回った。国内旅行人気は当面続く見通しで、今年の各連休では海外旅行よりも国内旅行が活況を呈する可能性が高い。

【4/12~4/18】

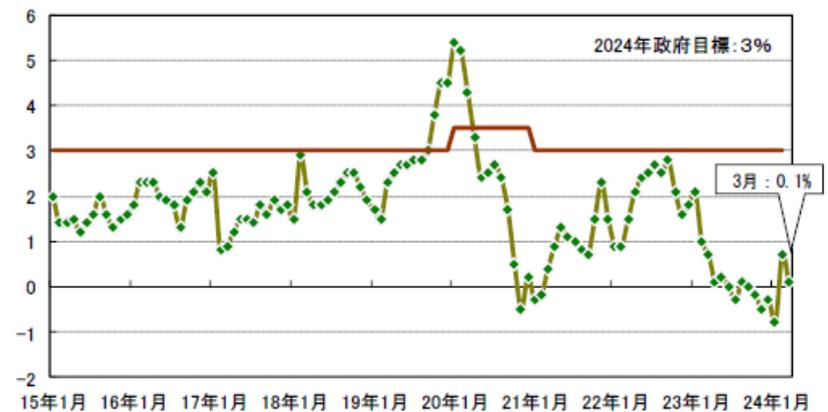
◎中国1-3月の成長率は5.3%、先行きに不安残す

中国国家统计局は16日、2024年第1四半期（1-3月）の実質国内総生産（GDP）成長率が前年同期比5.3%だったと発表した。成長率は23年第4四半期（10月-12月）の5.2%から0.1ポイント拡大。4%台に落ち込むとの予測もあった中では、良好な結果となった。設備投資等が予測以上に拡大したのは政府が企業に設備投資を強く促していることが繋がったと指摘した。ただ、設備稼働率が異例の低水準を記録し、他分野では不動産不況が続いている等、先行きには不安も残る。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2024年5月号)

2024/4/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【4/19~4/25】

◎ 今年の宅地供給減少、開発の停滞継続

第一財經日報によると、中国の主要都市の多くは今年、宅地供給量を一層減らす計画だ。北京、上海等大都市13市の今年の宅地供給計画を見ると、予定供給量は前年の計画から1割減少。廈門、蘇州等一部の都市は減少率が5割を超えた。各都市当局は、近年の不動産不況で住宅在庫が積み上がっていることを重く見て、供給量を絞ったとみられる。宅地供給量を抑えている間は、住宅開発が小規模にとどまることになる為、近年の開発縮小に伴う内需低迷は今後も続く見通しだ。

◎ 中国国潮経済が拡大、市場規模は28年に3兆元超え

中国で数年前から顕在化している「国潮」（中国ブランドの商品を評価する機運）が今後ますます強まる見通しだ。中国市場調査会社の艾媒諮詢は、国潮経済の規模が2028年に3兆元を超え、23年比で約5割拡大すると予測した。中国ブランドの品質向上が国潮の拡大の主な要因。中国網信雑誌が2月に発表した調査によると、国潮を支持している比率が最も高い年齢層は18歳未満で、97%が支持。若い世代が年齢を重ねるとともに購買力を高めると、中国ブランドの売り上げが伸びやすくなり、国潮経済の見通しを明るくしている。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3
実質GDP成長率	%	-	6.3	-	-	4.9	-	-	5.2	-	-	5.3
消費者物価上昇率	%	0.2	0	-0.3	0.1	0	-0.2	-0.5	-0.3	-0.8	0.7	0.1
都市部調査失業率	%	5.2	5.2	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0	5.1	5.2	5.3	5.2
輸出額	10億ドル	280.9	283.4	280.8	283.9	296.5	274.2	292.6	303.4	307.6	220.2	279.7
輸入額	10億ドル	215.8	214.0	201.4	216.6	221.3	218.3	223.3	228.4	222.1	180.6	221.1
経常収支	100万ドル	-	136,017	-	-	196,796	-	-	252,987	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,176.5	3,193.0	3,204.3	3,160.1	3,115.1	3,101.2	3,171.8	3,238.0	3,219.3	3,225.8	3,245.7
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.00	7.16	7.19	7.25	7.30	7.31	7.22	7.14	7.17	7.19	7.20

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2024年5月号)

2024/4/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○清明節旅行、花見や茶摘み体験が注目

「清明（せいめい）」は「二十四節気」の5番目の節気。「すべてのものが清らかで生き生きしている」という意味で、2024年は4月4日から4月19日です。

中国では「清明」時期に大切な行事を行う風習があります。「清明節」と呼ばれる1日には、多くの人はお墓を掃除して先祖供養をします。日本でいうお盆にあたる日です。

「清明」の頃には、冷たい北風の季節が終わり、春の到来を知らせてくれる穏やかな風が吹きます。晴れの日では暖かくて湿度も低く、雨の日でも濡れた若葉の緑が清々しく見え、気持ちのいい季節です。今年の清明節旅行は北京、上海等大都市が人気となる以外に、小都市での花見や茶摘み体験が注目を集めました。

清明節から二十四節気の6番目「穀雨」までの期間は、春の新茶の摘採時期となります。茶畑を散策したり、春の新茶を飲んだり等茶文化体験がじっくり楽しめます。茶畑の多くは田舎に位置し、山や川に囲まれて空気がとても新鮮です。茶摘み体験のほか、村の散策を行う等の静かな時間を過ごす点がとても癒される旅行であると好評です。また、伝統文化をテーマとしたイベントが数多く開催され、観光客は春を満喫すると同時に伝統文化もじっくりと楽しむことができます。例えば、河南省洛陽市では牡丹の花が咲き誇り、観光客が押し寄せました。4月1日に第41回牡丹文化フェスティバルが開幕し、詩人・白居易が「花開き花落ちる二十日、一城の人皆狂うがごとし」と詠んだように、市内は活気であふれていました。

今年の清明節に大人気となっている花見旅行や茶摘み体験等は、中国伝統の要素が詰まっています。人々が健康的な暮らしを追求し、伝統文化を求めていることを反映しているのでしょうか。

○中国のオンラインミニドラマ

2024年に入って、従来のテレビシリーズと比べ、オンラインのミニドラマが人気を集めています。

ミニドラマは通常1話の時間が15分程度、短いのが2-3分です。ミニドラマはテンポの速いナレーション、どんでん返しの数々、シンプルなテーマという特徴があります。更に、復讐、情けと恨み、タイムスリップ、生まれ変わり、逆襲などの視聴者のアドレナリンを刺激するテーマが加わり、ストレスの多い仕事からリラックスする時間を見つめたいと願う若者の間でますます人気が高まっています。

今年の春、「私は80年代に戻り、継母になる」というミニドラマが大好評を博し、現代の女子大学生がタイムスリップし、中国80年代の農村で継母になったコンテンツです。主人公は現代の考え方で80年代の婚姻、子育て、親戚関係などの生活問題を爽快に解決し、中身が空っぽ、くだらないといった批判されがちな話ではありますが、若者の注目を集めています。該当ミニドラマは有料視聴、配信当日に2,000万元以上の課金があったと言われます。

中国の人気ミニドラマはローカライズされ、海外にも輸出しています。2022年に海外市場向けに「ReelShort」というミニドラマアプリのダウンロード数は一時トップのティックトックを抜き、米AppStoreのエンタメランキングでトップに、総合で2位になりました。中国ミニドラマによくあるキャラ設定や激しい展開などの特色を留めながら、欧米の視聴者に馴染みがある狼人間や吸血鬼などの題材を取り入れ、多くの外国人視聴者を獲得しました。

また中国のミニドラマ「虚顔」が怒涛の展開や丁寧な制作といった高評価で、日本のテレビ局に採用され、4月12日より放送されています。皆様も仕事の忙しい時に、隙間時間を埋める娯楽にミニドラマはいかがでしょう？

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、本資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2024年5月号)

2024/4/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆2024年2月の国内経済、観光業が寄与

タイ中央銀行は、2月の国内経済の成長は前月から緩やかに拡大したとの見方を示した。中国人等に対する観光ビザ免除の効果で、観光を中心にサービス業が引き続き改善した。民間消費指数は前年同月比2.1%上昇した。鉱工業生産指数は同2.8%下落したものの、前月の下落率からは改善した。食品・飲料やゴム・プラスチック等の化学品の生産は伸びた半面、乗用車や商用車、集積回路（IC）等は落ち込んだ。民間投資指数は季節調整後で同0.8%上昇した。資本財の輸入増加を受け、機械・設備投資は上昇したが、建設投資は下落した。

◆2024年3月CPI、6カ月連続で下落

タイ商務省が発表した2024年3月の一般消費者物価指数（CPI）の平均値は、前年同月比0.47%減と、6カ月連続で下落した。分野別では、食品・飲料が前年同月比0.57%減、非食品が同0.40%減とそれぞれ下落した。2024年1～3月のCPIは前年同期比0.79%下落と

なった。

◆2024年2月の失業率、1.0%に低下

タイ国家統計局によると、2024年2月の失業率は1.0%（43万2,000人）だった。前月の1.1%から改善した。

◆2024年1～2月の自動車生産台数、前年同期比15.9%減少

タイ工業連盟（FTI）によると、2024年1～2月の自動車生産台数は27万5,792台で、前年同期比15.9%減だった。内訳は乗用車が10万2,950台（同11.0%減）、商用車が1万2,842台（同18.6%減）だった。国内の新車販売台数は前年同期比21.5%減の10万7,657台。完成車輸出台数は同0.1%増の17万5,436台。輸出額は同12.8%増の1,212億2,870万バーツだった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3
実質GDP成長率	%	-	1.8	-	-	1.4	-	-	1.7	-	-	-
消費者物価上昇率	%	0.5	0.2	0.4	0.9	0.3	-0.3	-0.4	-0.8	-1.1	-0.8	-0.5
失業率	%	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-
輸出額	100万ドル	24,459	25,395	22,143	24,280	25,476	23,579	23,480	22,792	22,650	23,385	-
輸入額	100万ドル	25,994	24,528	24,121	23,920	23,384	24,411	25,879	21,819	25,408	23,939	-
経常収支	100万ドル	-2,832	1,725	-1,071	467	3,154	969	-1,225	2,266	-191	1,965	-
外貨準備高	10億ドル	220.8	218.2	220.7	216.9	211.8	210.9	219.1	224.5	221.6	222.4	223.4
主要政策金利	%	2.00	2.00	2.00	2.25	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50
対ドル為替レート	バーツ	34.3	34.9	34.6	35.0	35.9	36.5	35.5	34.9	35.2	35.9	36.0

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2024年5月号)

2024/4/30

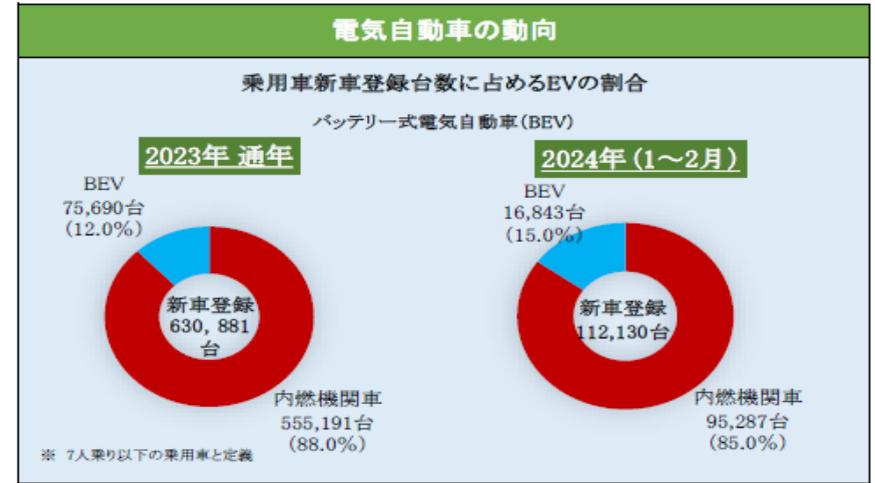
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

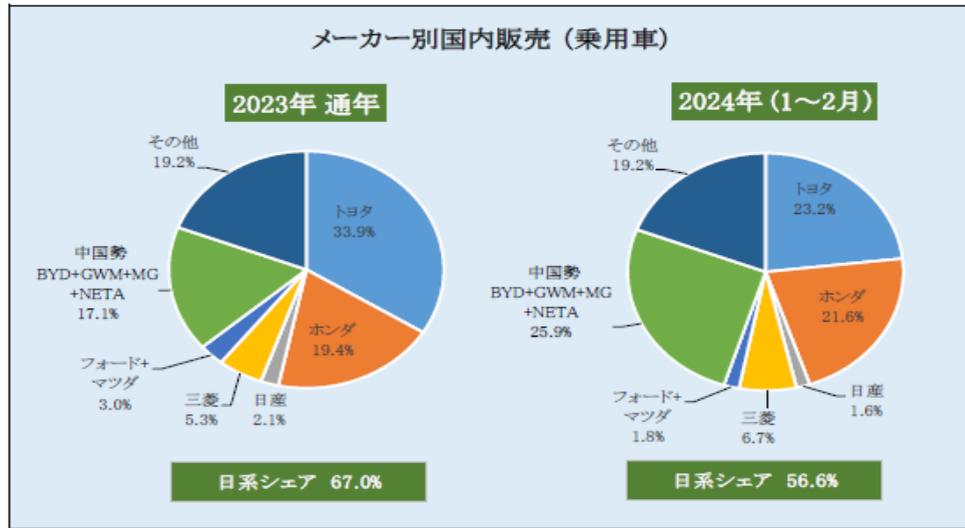
りそな銀行バンコック駐在員事務所

生産・国内販売・輸出の動向								
		2021年	2022年	2023年	2024年 (1~2月)	前年同期比 (%)	2月	
【台数】	(台)							
	四輪	生産台数						
		乗用車	599,844	600,839	648,803	102,950	89.0	50,441
		商用車	1,085,861	1,282,676	1,192,883	172,842	81.4	83,249
		合計	1,685,705	1,883,515	1,841,686	275,792	84.1	133,690
	国内販売台数	乗用車	251,800	265,069	292,505	43,273	90.7	19,861
商用車		507,319	584,319	483,275	64,384	72.0	32,982	
合計		759,119	849,388	775,780	107,657	78.5	52,843	
	輸出台数	959,194	1,000,256	1,117,539	175,436	100.1	88,720	
二輪	生産台数	1,780,654	2,015,940	2,120,738	353,592	92.5	175,770	
	国内販売台数	1,606,481	1,792,016	1,856,814	297,666	92.4	143,663	
	輸出台数	965,967	1,034,840	822,608	167,489	101.4	84,636	
【完成車輸出金額】 (百万バート)								
四輪		561,147	619,348	719,992	121,229	112.8	60,661	
二輪		75,985	73,729	68,589	12,501	96.9	6,744	

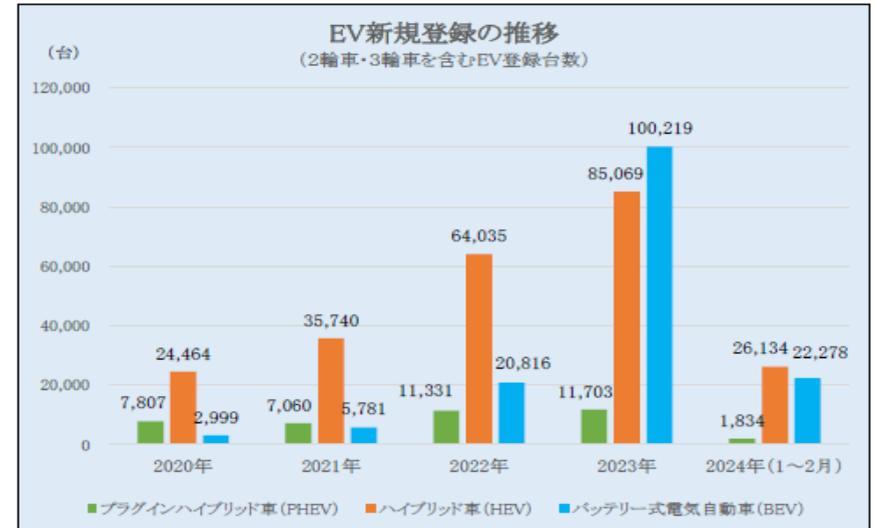
出所:タイ工業連盟 (FTI)



出所:タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所:タイ国トヨタ自動車のデータを基に作成



出所:タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。